玉川大学主催公開シンポジウム

**持続可能な開発のための国際理解教育
—環境および多文化との共生にむけて—**

**Education for International Understanding:
Towards Sustainable Development, Environmental Awareness, and Globalism**

パネリスト

メアリ J. ピゴッツィ氏

ジョルジュ・ハダッド氏

李三悦氏

A.H. ザクリ氏

佐治晴夫氏

2005年6月3日(金) 14:00~17:00

場所: 玉川学園講堂

主催: 玉川大学

共催: (財)ユネスコ・アジア文化センター

後援:

日本国際理解教育学会

日本ユネスコ国内委員会

東京都教育委員会

(社)日本ユネスコ協会連盟

プログラム

持続可能な開発のための国際理解教育 —環境および多文化との共生にむけて—

総合司会：石橋哲成（玉川大学教育学部 学部長）

シンポジウム司会：松香光夫（玉川大学農学部教授）

流れ	内容
14:00～14:10 挨拶	小原芳明（玉川大学学長） 中西卸治（ユネスコ・アジア文化センター理事長） 井上正幸（文部科学省国際統括官、日本ユネスコ国内委員会事務総長）
14:10～16:05 話題提供	メアリ・ピゴッツィ Mary J. Pigozzi（ユネスコ教育の質向上部長） ジョルジュ・ハダッド Georges Haddad（ユネスコ高等教育部長） 李三悦 Samuel Lee（韓国ユネスコ国内委員会事務総長） A. H. ザクリ A.H. Zakri（国連大学高等研究所 所長） 佐治晴夫（鈴鹿国際大学短期大学部 学長）
16:05～16:20 休憩（15分間） *フロアからの質問用紙を回収いたします。 *質問のあるかたは、質問用紙を会場内のスタッフにご提出ください。	
16:20～ 議論 17:00 終了	フロアからの質疑応答とシンポジストの共同討議

*イヤホンを借りた方は、必ず、出口でご返却ください。

The task of the Decade of Education for Sustainable Development, challenges, and quality education as a way forward

Dr. Mary Joy Pigozzi

The Decade of Education for Sustainable Development (DESD) demands nations and citizens to re-orient education, defined broadly, to contribute to a sustainable world, now and in the future. At the foundation of this re-orientation is the need to learn and practise the values that support sustainable living in all walks of life and in all sectors. Among the challenges to education for sustainable development are the means to move beyond formal education, although that is important, the importance of focussing on all three pillars from the WSSD, economy, social and environment, and not just the environment, and the ability to stay focussed on education and not move into sustainable development activities themselves. A framework for quality education is proposed as a way to meet these challenges.

「持続可能な開発のための教育の10年」その課題と挑戦 ー前進中の「教育の質」プログラムとの関連でー

メアリ・ジョイ・ピゴッツィ

「持続可能な開発のための教育の10年 (DESD)」は、国家や市民に対して、現在そして未来にわたって持続可能な世界を作ってゆくために、広い意味での教育に新しい方向づけをしようとするものです。こうした教育の新しい方向づけの基礎として、生活の全般にわたって、そして社会のあらゆる領域において、持続可能な生き方を支持するような価値観を学び、実践することが必要です。持続可能な開発のための教育への挑戦には、学校教育を超えて進んでゆく手段が必要です (もちろん学校教育も大切ですが)。また「持続可能な開発に関する世界サミット (WSSD)」で指摘された3つの柱、すなわち経済、社会、環境の全てに注意を払うことも大切です (環境だけでなく)。さらに、持続可能な開発の活動自体に移って行ってしまうのではなく、教育に焦点をあて続ける能力も必要です。こうしたもろもろの課題に効果的に答えてゆくためのひとつの方法として、「教育の質」プログラムの枠組みが提唱されています。

メアリ・ジョイ・ピゴッツィ氏略歴

ピゴッツィ氏は、教育の質、基礎教育、発展途上国における男女の教育機会均等の領域で25年のキャリアをもち、世界35ヶ国で活動した経験をもつ専門家です。ボツワナで生まれ育ち、ボツワナとジンバブエで学校教育を受けました。アメリカのインディアナ大学およびミシガン州立大学に学び、教育学で博士号を取得しています。現在は、ユネスコにて、教育の質向上部長として、持続可能な開発のための教育、平和・人権教育、エイズ対策教育、健康教育などの仕事を統括しています。

Education for Sustainable Development: Challenges and Perspectives for Higher Education and Research

Prof. Dr. Georges Haddad

The United Nations Decade of Education for Sustainable Development (2005-2014) was adopted by the United Nations General Assembly in March 2005 and UNESCO was designated as lead agency for the promotion of the Decade. Education is a key instrument for bridging about the changes in the knowledge, values, behaviors and lifestyles required to achieve sustainability and stability within and among countries, democracy, human security and peace. With respect to higher education, there will be emphasis on the role of universities in refining the concept and messages of education for sustainable development, integrating environmental, demographic, economic, social and a range of other concerns inherent in the notion of sustainability. In re-orienting their research programmes and curricula, key will be the universities' capacity for flexible interdisciplinary cooperation and for collaboration with outside institutions. Exposure of students to real life learning/practicing situations and multi-professional environments will be ways to bridge the gap between what is taught and what is happening. Universities will have to experiment by exercising more initiative and by risking new approaches.

持続可能な開発のための教育: 高等教育および研究のための課題と視点

ジョルジュ・ハダッド

国連による「持続可能な開発のための教育の10年（2005年～2014年）」は、2005年3月、国連総会で採択され、ユネスコはその促進のための指導機関として任命されました。教育は、国内外における持続可能性と安定、また民主主義や安全や平和を達成するために必要な知識、価値観、行動、ライフスタイルの変化をうながしてゆくための最も重要な手段です。高等教育に関しては、「持続可能な開発のための教育」という概念とメッセージをより精緻なものにし、「持続可能性」という言葉に含まれている環境、人口、経済、社会その他の諸要因を統合してゆく役割が大学に強く求められてゆくでしょう。大学での研究計画やカリキュラムに新たな方向づけを与えてゆく上で、どのくらい柔軟に学際的な協力ができるか、また学外の諸機関との協働ができるかが大学の器として問われるようになると思います。学生達に現実生活を学習、実践する機会を与えること、またさまざまな職業の人が共存する環境に触れる機会を与えることは、大学で教えられることと現実に行き違っていることとのギャップを埋めるための有効な方法になるでしょう。大学は、もっと積極的にイニシアチブを取り、新しいアプローチを危険を恐れずに敢えて試みるという実験を行ってゆく必要があるのです。

ジョルジュ・ハダッド氏略歴

1951年生まれのハダッド氏は、エコール・ノルマル・シュペリエールを卒業後、パリ大学にて数学を学び、数学の博士号を取得しました。トゥール大学、パリ大学等で数学の教授として教鞭をとり、1989年から1994年までは、ソルボンヌ大学（パリ第1大学）の学長を務めました。現在は、ソルボンヌ大学名誉総長です。ハダッド氏は、世界高等教育会議で運営委員会議長を務め（1994年～1999年）、また1997年から2000年まで世界銀行とユネスコとの協同主催による「発展途上国における高等教育のためのタスクフォース」の委員を務めるなど、国際的な高等教育の専門家として活躍しています。

Common Tasks of ESD in North East Asia

Prof. Dr. Samuel Lee

Since the concept of sustainable development is very broad and evolving according to the socio-economic context and historical development stages, Education for Sustainable Development (ESD) should keep the balance between its holistic concepts and contextual approaches. The contextual analysis of the situations of our region, North East Asia, regarding sustainable development shows the urgent necessity of building a peaceful community in order to guarantee the sustainable life of people and economic development and ecological sustainability in North East Asia.

Strengthening Education for International Understanding to overcome the past history of domination and confrontation and to build a cooperative community and network between China, Japan, North and South Korea, and Mongolia is the basic condition for the successful practice of sustainable development in this region. Without peace and security there is neither economic development, nor sustainable environment, nor sustainable human life. Schools and teachers in North East Asia are now challenged by these common tasks of EIU and ESD.

東北アジアにおける ESD の共通課題

李三悦

持続可能な開発という概念は、それぞれの国のおかれた社会経済的文脈や歴史的発展段階に応じて非常に広い意味を持ち、また発展しつつある概念です。それゆえ、「持続可能な開発のための教育 (ESD)」は、その概念の全体像をつかむことと個々の文脈に応じたアプローチをすることとの間にバランスを保つことが大事になってきます。私たちの住む東北アジア地域の状況を持続可能な開発という観点から文脈的に分析してみると、東北アジアに住む人々の持続可能な生活を保障し、この地域の経済発展と生態学的な持続可能性を保障するためには、平和なコミュニティを作ることが何よりも切実な必要性をもっていることが分かります。

支配と対立という過去の歴史を克服し、中国、日本、北朝鮮、韓国、およびモンゴルに協調的コミュニティとネットワークを作るために国際理解教育を強化することは、この地域において持続可能な開発の実践を成功させるための基礎的な条件です。平和と安全がなければ、経済発展も、持続可能な環境も、さらには持続可能な人間生活もありえません。東北アジア諸国の学校と教師たちは、いまやこうした国際理解教育と持続可能な開発のための教育という共通の課題を突きつけられているのです。

李三悦氏略歴

李三悦 (サミュエル・リー) 氏は、ソウル国立大学を卒業後、ドイツ・ゲッティンゲン大学にて博士号を取得しました。20年以上にわたり、ソウルにある崇實大学の社会哲学の教授として教鞭をとり、またユネスコの支援を受けたアジア太平洋国際理解教育センター所長を務めました。李氏はまた、世界教会評議会の理事など、教会関係の役職も担っています。平和研究、教育、社会哲学などについて多数の著作があります。

Major Activities of the United Nations University to Promote the Decade of Education for Sustainable Development

Prof. Dr. A.H. Zakri

Education and capacity building is key to attaining sustainable development. Following WSSD and the resolution of the UN General Assembly, the United Nations University (UNU) launched a programme on education for sustainable development (EfSD programme) in its Institute of Advanced Studies (UNU-IAS) in 2003

The major programme components include: i) advocacy and dissemination of the Decade of Education for Sustainable Development (DESD), ii) promotion of regional centers of expertise on education for sustainable development (RCEs) and their networking as one of the major outcomes of the DESD, iii) collaboration with the Global Higher Education for Sustainability Partnership (GHESP) in its Resource Project to promote activities of higher education institutions towards sustainable future, iv) distance on-line learning on education for sustainable development, and v) trainers' training on education for sustainable development.

It has been closely collaborating with the Ubuntu Alliance, i.e., eleven of world foremost educational and scientific/technological institutions who signed the Ubuntu Declaration at the Johannesburg Summit in 2002 to i) strengthen collaboration between science and technology researchers and educators, ii) better integrate science and technology into educational programmes for sustainable development, and iii) strengthen cooperation between formal and non-formal education.

「持続可能な開発のための教育の10年」の推進における 国連大学の主な取り組み

A.H. ザクリ

教育、キャパシティビルディングは持続可能な開発を達成するための鍵である。持続可能な開発に関する世界首脳会議(WSSD)及び国連総会の決議を踏まえ、国連大学は持続可能な開発のための教育プログラム(EfSDプログラム)を2003年に国連大学高等研究所で立ち上げた。

プログラムの主な要素には、i) 持続可能な開発のための教育の10年(「教育の10年」)の支援と周知、ii) 持続可能な開発のための教育に関する地域の拠点(RCEs)づくりとそのネットワーキング、iii) 持続可能な将来に向けて高等教育機関が貢献するよう、資源プロジェクトに関する「持続性に関する世界高等教育パートナーシップ(GHESP)」との連携、iv) 持続可能な開発のための教育に関するオンライン教育、v) トレーナーの訓練が含まれる。

国連大学は、世界の著名な11の教育、科学技術機関により構成されるウブントゥ連合と緊密に連携してきた。ウブントゥ連合は、2002年のヨハネスブルグサミットでウブントゥ宣言に署名した機関の集まりであり、i) 科学技術の研究者と教育者との連携の強化、ii) 持続可能な開発に向けた教育プログラムへの科学技術の適切な統合、iii) 公的教育と非公的教育の間の協力の強化を目指している。

A.H. ザクリ氏略歴

マレーシア出身のザクリ氏は、国際連合大学高等研究所所長を務めています。ミシガン州立大学で博士号を取得後、生物工学および発展途上国における生物多様性の専門家として活躍し、環境部門での業績に与えられる国民栄誉賞であるランカウイ賞をはじめ国内外の多くの賞を受賞しています。また多くの学術評議会の委員を務めています。ザクリ氏は、世界のエコシステムの健康度査定のために国連事務総長が2001年に開始した4年計画の「ミレニアム生態系アセスメント」の共同議長としても活躍中です。

最新宇宙論の視座から国際理解教育を考える — 宇宙の創生からヒト・人・人間への旅 —

佐治晴夫

- 宇宙の浜辺で聴き耳をたてる時
- 宇宙年齢 137 億年確定の思想史的意味
- ひとつぶの光からヒト・人・人間への旅
- 宇宙進化の視座から国際理解教育を考える
- “思う” から “考える” への教育
- 人はなぜ戦い、平和を希求するのか
- 宇宙の共通言語としての数学・音楽を考える
- “見る” ことと “聴く” こと
- 宇宙に旅立ったバッハのプレリュード
- 美しい未来を夢見て
- 宇宙のひとかけらとしての私達
- “わかる” ことは “かわる” こと

佐治晴夫氏略歴

現在、鈴鹿国際大学・短期大学部 学長。1935 年、東京生まれ。理学博士。東京大学物性研究所、玉川大学学術研究所、県立宮城大学教授などを経て、2004 年 4 月から現職。

量子論的”無”からの宇宙創生理論で知られるが、1977 年、NASA が打ち上げた太陽系・外惑星探査機：ボイジャーに、地球からのメッセージとしてバッハのプレリュードを搭載することの提案や、E.T. (地球外生物) との対話には、音楽を使うことなどの提案などでも有名。理系・文系の枠を超えた”数理芸術学”を提唱し、玉川大学には”真昼の星”を見せるための天体観測施設を造るなど、リベラル・アーツ教育の実践を広く展開している。

主要著作：「宇宙の不思議」、「宇宙はすべてを教えてくれる」(PHP 研究所)、「星へのプレリュード」(MOKU 出版)、「二十世紀の忘れもの」(雲母書房)、「わかることはかわること」(河出書房新社)、「宇宙が教えてくれること」(文溪堂)「おそらにはてはあるの」(玉川大学出版部)、「宇宙の風に聴く」(セルフラーニング研究所) など。

松香光夫氏略歴

玉川大学農学部（環境生物学分野）教授。理学博士。玉川大学全人教育研究施設・環境教育研究グループ所属。日本生物教育学会会長。アジア養蜂研究協会会長。日本環境教育学会，E S D－J 会員。

ミツバチと花と人のつながりから環境を考えるようにしている。

1942年生まれ。玉川大学農学部卒業，東京大学大学院理学系研究科修了